



第6次高畠町総合計画

2019-2028

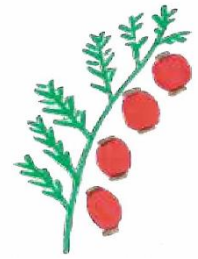
笑顔があふれ、温かいつながりが
実感できるまちをめざして

あふれる
うふふ
ゆきかう
またね
∞ ∞

指標の達成状況及び
施策評価
(令和4年度)

高 畠 町





1.将来像と基本目標の体系図について……………1

2.基本計画における関連指標について……………2

3.評価区分について……………2

4.指標の達成状況

 (1)個別指標の進捗状況……………3

 (2)「めざす町の姿」ごとの進捗状況……………4

 (3)「まちづくりの基本目標」ごとの進捗状況……………5



1. 将来像と基本目標の体系図について

令和元年度を初年度とする第6次高島町総合計画(令和元年度～10年度)において、みんなでめざす町の将来像を「ゆきかう「またね∞」あふれる「うふふ∞」」と表現しました。

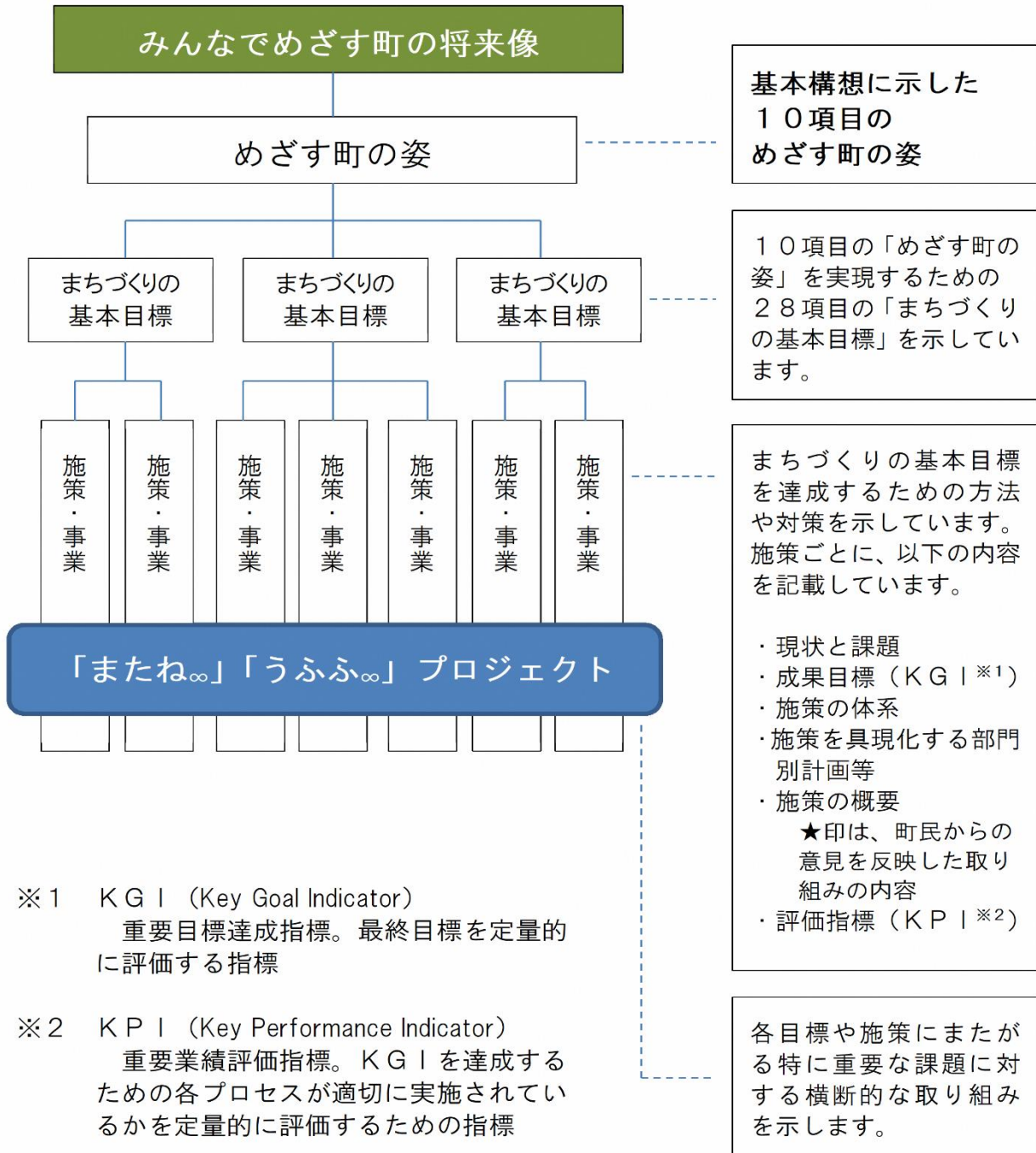
高島町の未来において一人ひとりが『しあわせ』になることを実現するため、ライフステージごとに10項目の「めざす町の姿」を設定し、28項目の基本目標を掲げています。

将来像	共通視点	ライフステージ	めざす町の姿	まちづくりの基本目標		
ゆきかう「またね∞」あふれる「うふふ∞」	楽しむ(うふふ) × つながる(またね) × 未来へつながる(∞無限大)	高島町で暮らす人の「しあわせ」のために	「生まれてくる」ひとのために	高島町で子どもを産み育てたい人が増えている	新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する 安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	
			「育つ」ひとのために	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	子どもが健康にすくすく育つ環境を整える 子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす 課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	
			「学ぶ」ひとのために	学びの場が充実して、魅力ある“高島人”が育っている	子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う 学ぶ気持ちを大切にし、地域の教育力をアップさせる 「ちがいに」を認めることができる人を増やす	
			「働く」ひとのために	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす 資源や人のつながりで、地域産業を盛り上げる	
				夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	一人ひとりの生活にあった多様な働き方の選択肢を増やす 新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	
			「暮らす」ひとのために	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす 安心して快適に生活できる環境を整える みんなが地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしきみを広げる	
				一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす 地域の中でゆるやかに支え合うしきみを広げる	
			「年を重ねた」ひとのために	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす 住み慣れた地域で、安心して暮し続けられる環境を整える	
			「次世代の」ひとのために	みんなで未来に向けたまちづくりを進めている	地域の自然や生態系を守る活動を広げる	持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす
					歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	夢や志を持ち活躍する若者を増やす
		協働でまちづくりを進めるための環境を整える				
		高島町とつながる人に	「町外に暮らす」ひとのために	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	町内外に町の魅力を効果的に発信する	
					高島町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	
					交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす	
					移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	

2. 基本計画における関連指標について

28項目のまちづくりの基本目標を定め、それぞれに成果目標を設定しています。そして、目標達成のため施策を設定し、一つひとつに具体的な数値等で示した115の関連指標を設定しています。

指標は、前期計画の最終年度である令和5年度の目標値に対し、達成状況を毎年確認し、公表することとしており、今回は計画の4年目となる令和4年度の達成状況等について分析・評価したものです。



3. 評価区分について

5年後の目標値への達成状況に応じて、「◎」「○」「△」「×」の4段階・記号を用いて評価します。評価基準は次のとおりです。

◎⇒5年後の目標値に達成
○⇒現状値から改善 ・積み上げの数値目標の指標においては、順調に数値を伸ばしている場合 ・単年度ごとの数値をもって比較する指標においては、現状値より実績がある場合
△⇒現状値と同等 ・現状値から数値が伸びず、現状値と同等であった場合 ・年度中に評価指標を測るための調査がない場合
×⇒現状値より後退 ・様々活動や取組を行っても現状値より後退した場合

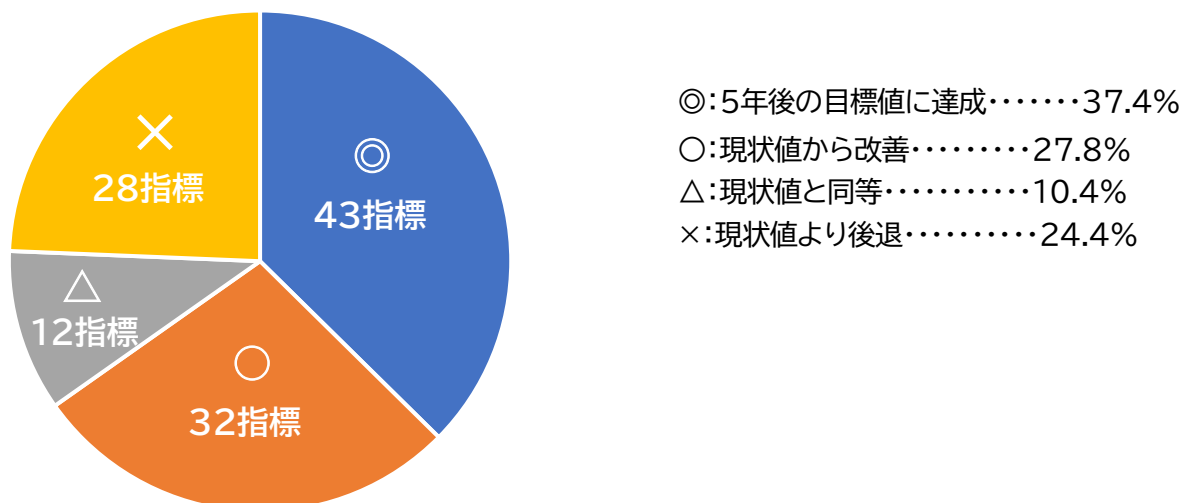
4. 指標の達成状況

(1)個別指標の進捗状況

まちづくりの基本目標ごと合計115の評価指標を設定し評価を実施しました。

No.	めざす町の姿	まちづくりの基本目標	指標数
1	高島町で子どもを産み育てたい人が増えている	①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	3
		②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	4
2	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	5
		④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	6
		⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	2
3	学びの場が充実して、魅力ある“高島人”が育っている	⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	5
		⑦学ぶ気持ちを大切にし、地域の教育力をアップさせる	5
		⑧「ちがいがい」を認めることができる人を増やす	2
4	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	5
		⑩資源や人のつながりで、地域産業を盛りあげる	6
5	夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	3
		⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	2
6	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑬自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす	2
		⑭安心して快適に生活できる環境を整える	8
		⑮みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	6
7	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	⑯生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	6
		⑰地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	3
8	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	⑱生きがいをもち人生を楽しんでいる人を増やす	2
		⑲住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	7
9	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	5
		㉑持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	4
		㉒歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	2
		㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす	4
10	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	3
		㉕町内外に町の魅力を効果的に発信する	2
		㉖高島町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	5
		㉗交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす	5
		㉘移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	3

【図1】全体的な(各指標の)達成状況の割合



「◎:5年後(10年後)の目標値に達成」した指標は、43指標で全体の37.4%、「○:現状値から改善」した指標は32指標で全体の27.8%となりました。

「△:現状値と同等」は12指標で全体の10.4%、「×:現状値より後退」は28指標で全体の24.4%となっており、現状値から改善となった以上の指標が全体の65.2%となっています。前年度(令和3年度)の同指標が61.7%でしたので、前年度と比較して全体的に改善または前進する結果となりました。

(2)「めざす町の姿」ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	指標合計	○以上	△以下	◎	○	△	×
1	高島町で子どもを産み育てたい人が増えている	7	57.1%	42.9%	1	3	0	3
2	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	13	92.3%	7.7%	8	4	0	1
3	学びの場が充実して、魅力ある”高島人”が育っている	12	50.0%	50.0%	5	1	1	5
4	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	11	63.6%	36.4%	2	5	0	4
5	夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	5	40.0%	60.0%	0	2	0	3
6	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	16	93.8%	6.2%	8	7	0	1
7	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	9	33.3%	66.7%	2	1	5	1
8	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	9	55.6%	44.4%	2	3	1	3
9	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	18	77.8%	22.2%	10	4	2	2
10	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	15	46.7%	53.3%	5	2	3	5
合 計		115	65.2%	34.8%	43	32	12	28

令和4年度は、「めざす町の姿」10項目中、7項目において「現状値から改善」以上が「現状値と同等」以下を上回る結果となりました。No.5「夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている」、No.7「一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている」、No.10「高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている」の3項目は「現状値と同等」以下となりましたが、停滞の要因として、No.5はコロナ禍により指標となる施策が全般的に不活発だったこと、No.7は令和4年度中に評価指標測定のための調査が実施されなかったこと、No.10は前年度に続きコロナ禍の影響を受けている評価指標があること及び対象事業における制度内容が実態に沿っているか検証を要する指標がある等が挙げられます。

令和4年度は、No.2とNo.6が令和3年度と同様に○以上の評価が多く高水準となっており、子育て環境や生活環境における指標の達成状況が前年に引き続き順調であることがうかがえます。

令和3年度と比較して全体的に改善または前進しておりますが、順調に進捗している項目と停滞している項目は前年の令和3年度と概ね同じ傾向となっております。

(3)「まちづくりの基本目標」ごとの進捗状況

まちづくりの基本目標	指標 合計	◎	○	△	×
①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	3	1	0	0	2
②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	4	0	3	0	1
③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	5	3	1	0	1
④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	6	3	3	0	0
⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	2	2	0	0	0
⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	5	2	1	1	1
⑦学ぶ気持ちを大切に、地域の教育力をアップさせる	5	2	0	0	3
⑧「ちがいを認めることができる人」を増やす	2	1	0	0	1
⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	5	2	2	0	1
⑩資源や人のつながりで、地域産業を盛り上げる	6	0	3	0	3
⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	3	0	2	0	1
⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	2	0	0	0	2
⑬自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす	2	2	0	0	0
⑭安心して快適に生活できる環境を整える	8	4	4	0	0
⑮みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	6	2	3	0	1
⑯生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	6	0	0	5	1
⑰地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	3	2	1	0	0
⑱生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす	2	1	1	0	0
⑲住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	7	1	2	1	3
⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	5	2	1	1	1
㉑持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	4	2	2	0	0
㉒歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	2	1	0	1	0
㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす	4	3	1	0	0
㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	3	2	0	0	1
㉕町内外に町の魅力を効果的に発信する	2	1	0	1	0
㉖高畠町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	5	1	1	0	3
㉗交流力を高め、高畠町を応援する人や地域を増やす	5	2	0	1	2
㉘移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	3	1	1	1	0
合 計	115	43	32	12	28

第6次高島町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
1)-①-1	高島町で子どもを産み育てたい人が増えている	①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	乳幼児とのふれあい体験の実施回数(年間)	3回	-	0回	×	健康長寿課	出前授業(高校生対象:思春期講座)	新型コロナウイルス感染症対策から乳幼児ふれあい体験は実施できず、今後実施に向けて取り組んでいく。また高島高校と連携した思春期講話は継続していく。
1)-①-2			結婚推進関連事業への参加者数(年間)	200人	150人	84人	×	生活環境課	高島町結婚推進支援事業	イベント開催数:4回 女性の参加申し込みが少なく取り止めになったイベントもあった。女性の参加が課題となっている。
1)-①-3			高島町若者定住促進事業による支援件数(累計)	120件	74件	(R4) 11件 (累計)136件	◎	建設課	若者定住促進事業(助成金)	町外からの若者世帯転入の定住実績が順調に推移している。今後も継続して実施する。
1)-②-1		②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	子育て世代を受け入れできる地域の居場所の数	6か所	2か所	5か所	○	健康長寿課	一般介護予防事業	居場所数は同じ。受け入れ状況を確認し実施団体と連携を図りながら子育て世代へ周知していく。
1)-②-1			妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をされたと思う就労妊婦の割合	95%	83.30%	92.0%	○	健康長寿課	産前産後サポート事業	母子健康手帳交付時のパンフレット配布等を継続。出産や育児の見通しが立てられるよう、子育てガイドを用いながらサービスや制度等について周知していく。
1)-②-1			ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	90%	84.50%	75.2%	×	健康長寿課	乳幼児健診・健康相談、子育て相談会	母親がゆとりを持って子育てができていく割合について改善が見られない。新型コロナウイルス感染症対策により、親子で過ごす時間の増加等環境の変化も大きい。引き続き適切な対応ができるよう情報提供等の支援を行っていく。
1)-②-2	産後、退院してからの1か月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受けることができたと回答した者の割合		95%	90.40%	94.1%	○	健康長寿課	妊婦訪問、新生児・産婦訪問	産前産後の電話相談等から緊急性や必要性を判断し、支援を必要とする妊産婦等へ早い段階で支援を実施。今後も継続実施していく。	
2)-③-1	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	子育てボランティア登録数	20人	0人	11人2団体	○	福祉子ども課	屋内遊戯場での子育てボランティア事業	高校生4人一般7人団体2の登録があり、15回の活動があった。今後も地域の子育て力を高めることを目的に広く募り、効果的な活躍の場や活動内容を提供していく。
2)-③-1			学びと交流の場の数	2か所	1か所	2か所	◎	福祉子ども課	サード(学びと交流の場)	開催回数:81回 参加児童の学年、人数:小3年~中3年、:実26人、延401人 新規参加児童数5人 支援員活動数:実42人、延285人 イベント開催回数3回 概ね計画通り行うことができていいる。参加児童の進学についても良いアドバイスができており、保護者より感謝の言葉を頂いた。ひとり親等家庭の生活向上に係るイベントの開催を農林振興課と協働し、3回行う事ができた。
2)-③-2			3歳児でむし歯のない幼児の割合	80%	77.10%	94.7%	◎	健康長寿課	歯科健康相談・乳幼児健診	保護者の中に虫歯予防の意識が定着しており、かかりつけ歯科医をもつ子も増えている。生後9か月から、定期的な歯科保健指導を行い子どもの虫歯予防対策を継続していく。
2)-③-2			低出生体重児の割合	減少	11.20%	10.9%	◎	健康長寿課	母子健康手帳交付、ふぁみりー学級	妊娠中から、電話訪問や面談、事業を通して妊婦および家族等に対し保健指導を継続していく。
2)-③-3			育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	95%	89%	50.2%	×	健康長寿課	乳幼児健診・健康相談、子育て相談会、ペアレントサポート講座	育てにくさを感じる親の割合は減少傾向にあるが、解決法がわからない親が増加傾向にある。親全体へ子どもの発達に関する予備知識の普及や、発達特性を持つ子や育てにくさを感じる保護者の支援のための相談支援体制の充実を図る。

第6次高島町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
2)-④-1	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	病児保育施設との連携強化数	3か所	2か所	5か所	◎	福祉こども課	病児保育事業の実施	本町において病児保育施設まほろんを開所し、町内在住及び町内事業所へ勤務する者の児童の受け入れを開始。それにより、置賜自立圏構想において、りんごのへや、みつばちルーム、すまいる、げんきルームと5施設で実施されている。
2)-④-1			放課後児童クラブの定員数	372人	305人	350人	○	福祉こども課	高島町放課後児童健全育成事業	支援員体制及び施設の環境が維持できているため、利用定員は維持できている。今後については、小学生児童の微減に反し放課後児童クラブの需要が維持もしくは微増という現状であるため、十分な保育スペースを確保するための施設整備検討と支援員の確保に努め、保育の必要性のある児童が十分に利用できる体制作りをする。
2)-④-1			3歳未満児の待機児童数	0人	0人	0人	◎	福祉こども課	待機児童数調査	年々就学前児童数が減少しているため、待機児童は発生しなかった。定員に対して入所者が少ない施設もあり施設によってはR5に定員減を行った施設がある。今年度の様子を見て、定員減を維持するか検討する。対して定員に対して入所希望者が多い施設もあるため、当該施設については定員の増も検討する。
2)-④-1			積極的に育児に参加している父親の割合	70%	56.50%	70.5%	◎	健康長寿課	ふぁみりー学級	2年連続して目標値を達成している。育てにくさへの対応や母親のゆとりある子育てへの支援とも関連するため、さらに父親の育児参加を促進していく。
2)-④-2			資格取得等の支援による就労人数(累計)	5人	1人	(R4)0人 (累計)4人	○	福祉こども課	生活応援給付金	本事業の周知を積極的に行い、支給対象(ひとり親)からの問い合わせも複数あったものの申請に至らず。支給実績無の要因は、修学と就業の両立不可という制度設計のなか、志したい者でも離職と収入減への不安から踏み切りにくい実情が聞かれるこのなか、これらの条件下でも修業可能と思われる対象を細やかに把握して今後とも働きかけを継続していく。
2)-④-2		④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	子育てについて困る町のひとり親の割合	35.60%	45.60%	23.80%	○	福祉こども課	ひとり親家庭等生活向上支援事業	令和4年度のひとり親コーディネーター相談実績は前年度比で1.5倍と伸びている。相談内容は主に家計や就労に関することであり、ひとり親の相談窓口として機能している。また、子育て支援に係る給付金支給による経済的支援も行った。引き続き、ひとり親の子育てを支援し、困り感を把握しながら寄り添って支援を行っていく。
2)-⑤-1		⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	医療的ケア児に関する協議の場の設置	設置	-	1回	◎	福祉こども課	置賜地域医療的ケア児支援連絡会	置賜地域における医療的ケア児支援に係る現状と課題について関係機関間で協議が行われた。町自立支援協議会こども部会では医療的ケア児に係る研修会を開催。今後も協議の場づくりに努めていく。
2)-⑤-2			交流の場の開催回数(累計)	5回	-	(R4)9回 (累計)36回	◎	福祉こども課	育児講座	年間10回の子育て及び子育て支援に関する育児講座を企画。新型コロナウイルス感染症予防対策のため1回は開催中止となっているが、総参加人数は169人となった。講座をきっかけに参加者同士の交流が継続していくよう働きかけていく。

第6次高島町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
3)-⑥-1	学びの場が充実して、魅力ある“高島人”が育っている	⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	自ら課題を解決しようとする子どもの割合	69%	66.05%	77.4	◎	教育総務課	主体的・対話的で深い学びの実現	一人一台端末の導入により、今後ICTを活用した主体的な学びが期待できる。「教える」授業から児童生徒が自ら「学ぶ」授業への転換。
3)-⑥-2			自己を肯定できる子どもの割合	82%	80.90%	82.2	◎	教育総務課	道徳教育の推進 いのちの教育の推進	道徳の教科化により、道徳科の確実な実践が進んでいる。各校でいのちの教育を推進し自尊感情の醸成を目指している。
3)-⑥-3			地域や社会をよくしたいと考える子どもの割合	57%	52.85%	56.1	○	教育総務課	地域教材を活用した授業の推進	コロナ禍3年目で、少しずつ地域ボランティアの学校支援が再開し、地域の方と関わる授業が行えるようになった。
3)-⑥-4			学校への地域人材の参加人数(年間)	増加	1,066人	994	×	社会教育課	各地区学校協働活動推進協議会活動	コロナ禍の状況ではあったものの、学校活動に対する地域住民のボランティア人数が増加している。今後も地域住民の参画を支援し、将来を担う子ども達の育成を推進する。
3)-⑥-4			大規模改修対象校(4校)の改修進捗率	25%	-	-	△	教育総務課	小学校校長室空調設備工事 小学校理科室空調設備更新工事	「高島町立小学校のあり方について」の報告書や老朽度調査の結果により、統廃合も視野に入れ、再検討していく必要がある。
3)-⑦-1			⑦学ぶ気持ちを大切に、地域の教育力をアップさせる	生涯学習講座への参加人数(年間)	維持	14,000人	10,275	×	社会教育課	地区づくり計画による講座・研修会等
3)-⑦-1		図書館の利用者数(年間)		21,000人	16,100人	43,471	◎	社会教育課	イベント開催、読書案内と本の貸出、学習室の提供等	開催するイベントと連動した図書案内をおこなった結果、本の貸出し冊数も伸びた。学習室の利用も増えてきている。図書館の利用の仕方について積極的にPRしながら事業を展開していく。
3)-⑦-1		たかはた出前講座・町民講座の利用者数(年間) ※注意 令4 事業名称変更		維持	2,500人	1,807	×	社会教育課	(パンフレットの改正、制度の日直し等)	コロナ禍の状況にあったものの実績は上向いてきている。今後とも制度の周知に力を入れ、受講者数のアップを図りたい。
3)-⑦-2		地域における学びの場の数		増加	127か所	128	◎	社会教育課	自治公民館99館、社会教育関係施設21館、ほか8施設	今後も世代交流、学びの場、体験活動の拠点として内容の充実を図る。
3)-⑦-3		地域の先生登録者数(地域人材バンク)		100人	-	10	×	社会教育課	町民出前講座(登録講師)	コロナ禍の状況にあったものの申込数は上向いてきている。今後は制度の周知強化から、関心度を高め講師の登録数増加を図り、「生涯学習」を推進したい。
3)-⑧-1	⑧「ちがいを認めることができる人を増やす	児童生徒に対する人権教育・福祉教育の実施回数(年間)		12回	7回	5回	×	統合	各小・中学校において人権教室を実施	コロナ禍により実施しない学校があった。コロナ禍も落ち着いたので、人権について考える機会として、各校1回は実施したい。
3)-⑧-2		支援者の資質向上のための研修実施回数(年間)(民生委員・児童委員研修会数)		維持	12回	49回	◎	統合	民児協研修会、視察研修、東置賜郡研修会、宿泊研修他	毎月の月例会において各支部ごとに研修会や視察などを実施、全体での研修会や外部研修会へ積極的に参加、主任児童委員については、施設訪問や視察、外部で主催する研修会に参加し資質向上に努めた。
3)-⑧-2			老人福祉相談員定例会、民生委員児童委員協議会月例会						相談員どうし、民生委員児童委員との情報共有を図り、高齢者の実態を把握することができた。継続して見守り・訪問活動を行い、適切な支援につないでいく。	
			人権擁護委員研修会						人権擁護委員の資質向上のために、研修会を年1回以上開催する。	
	教育相談員研修		コロナ禍3年目ではあるが、定期的開催のみとなった。							

第6次高畠町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
4)-⑨-1	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	農業産出額	82億円	78.7億円	84.6億円	◎	農林振興課		市町村別農業算出額(推計) ※農林業センサスを基にした国による推計
4)-⑨-1			若者の就農者数(年間)	維持	5人	5	◎	農林振興課	Uターン就農者2名、新規参入者3名	国や県による新規就農者支援事業の制度改正や新設があり、対象者の拡充が図られていることから、今後も就農相談者は増加の見込み。
4)-⑨-1			町公式YouTubeチャンネル農業番組制作本数(累計)	20本	1本	(R4)1本(累計)4本	○	農林振興課	有機米給食事業用動画	
4)-⑨-2		⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	製造品出荷額	7,044,349万円	5,789,941万円	4,335,616万円	×	商工観光課	・製造業設備投資等補助事業 ・新事業活動推進サポート補助事業	(実績は令和3年の数値)新型コロナウイルスの流行で急速に景気が悪化したことから、需要回復や経営の効率化、事業の多角化を目指す事業所を応援し、厳しい経営環境での事業の維持・発展を図るため、設備投資等補助事業を継続していく。
4)-⑨-2			商業年間商品販売額	2,869,855万円	2,731,634万円	2,781,100万円	○	商工観光課	・製造業設備投資等補助事業 ・新事業活動推進サポート補助事業	(実績は平成28年の数値)新型コロナウイルスの流行で急速に景気が悪化したことから、需要回復や経営の効率化、事業の多角化を目指す事業所を応援し、厳しい経営環境での事業の維持・発展を図るため、設備投資等補助事業を継続していく。
4)-⑩-1		⑩資源や人のつながりで、地域産業を盛り上げる	製造業付加価値額	26,888百万円	22,100百万円	2,011,346万円	×	商工観光課	・製造業設備投資等補助事業 ・新事業活動推進サポート補助事業	(実績は令和3年の数値)令和3年度は新型コロナウイルス流行の影響により売上の減少や原材料不足による減産を強いられる製造業者が多かった。資金繰りや設備投資、事業の多角化、販路拡大などをサポートする事業を引き続き実施して製造業の振興を図っていく。
4)-⑩-2			農商工観連携事業の支援数(年間)	10事業	-	4事業	○	商工観光課	・新事業活動推進サポート補助事業	令和4年度は新事業活動推進サポート事業支援が4件あり、うち農商工連携関連が1件あった。引き続き、事業の周知を強化し、事業所の積極的な取り組みを支援していく。
								農林振興課		町内飲食店事業者と若手農業者による懇談会を実施
4)-⑩-2			町外企業との連携事業数	7事業	2事業	0事業	×	商工観光課		新型コロナウイルスの影響で展示会の中止が相次いだため、出展の機会が消失し、交流事業の実施が困難となった。オンライン商談会など可能な形での交流を行いながら情報収集や連携の機会を確保するよう努める。
4)-⑩-2			町内農畜産物の新規需要取引数	5	-	1	○	農林振興課	ヒルトン東京お台場装飾用啓翁桜	
4)-⑩-2	地産地消取り組み事業数		33事業	28事業	17事業	×	農林振興課	・食育・地産地消推進事業	関係機関と連携し、取組の継続を進める。	
4)-⑩-2	たかはたブランドの認証数		40商品	30商品	32商品	○	商工観光課	・「広報たかはた」でブランド認証商品を募集 ・屋内遊戯場もつくる内にたかはたブランドコーナーを設置	毎年2月に新規商品の認証審査会を開催しているが、旬の食材を利用して作る商品などはその時期商品がない企業等も多いことも新規商品が出ない要因であると思われる。通年で随時申請できる仕組みづくりをしていくことも要検討である。	

第6次高島町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
5)-⑪-1	夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	情報提供手段の増加	4ツール	1ツール	3ツール	○	商工観光課	産業振興センター内にコワーキングスペースを設置	現在、書面、ホームページ等での情報提供を行っているが、フェイスブック、メールマガジンなど情報提供手段を増やしていく。新たにコワーキングスペース予約サイトを活用して各種支援事業の発信充実に努める。
5)-⑪-2			新規高等学校卒業求職者の県内への就職率	80.20%	74.60%	75.59%	○	商工観光課	・町内企業説明会	近年の県内就職者は約7割で推移している。高島町雇用対策協議会と連携し、企業の人事担当者や高校の進路指導担当とも情報を共有しながら、町内企業への興味関心を高めることができるような方策を実施していく(職業体験会、企業説明会、ガイドブック配布など)。
5)-⑪-2			職業体験・企業説明会に参加した小中高校生の人数(年間)	280名	200名	53名	×	商工観光課	・職業体験、町内企業説明会	令和4年度は高島高校での職業体験会(WAKUWAKUWORK)を実施し町内企業や仕事について知る機会を設けることができた。置賜地区雇用対策協議会実施の職業体験会にも町内企業が参加することで周辺市町の高校に通う生徒にもアピールできるようにしていく。
5)-⑫-1		⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	創業セミナーの受講者数(年間)	15人	15人	12人	×	商工観光課	・創業支援補助事業	商工会主催の創業セミナーは先着10名程度の定員で実施しており、参加者数は毎回ほぼ定員に達している。町広報への掲載で町民に広く事業を周知しているが、起業に至った実例や、各種優遇を受けられるメリット発信、CWSを活用した起業セミナーを開催するなどを通じて起業への関心を高めていきたい。
5)-⑫-2			町の支援により創業・起業した者(社)の数	18件	8件	2件	×	商工観光課	・創業支援補助事業	創業セミナー参加者を対象とした開業経費の補助事業を活用し、起業意欲の高い人材に必要な知識と資金を提供できるよう支援を継続していく。
6)-⑬-1	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑬自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす	自然体験教室・自然体験イベントなどの実施回数(年間)	維持	31回	47回	◎	統合	<ul style="list-style-type: none"> ・植菌授業 2回 対象者:高島小学校(4学年) 61名 1回、高島高校(2、3学年) 14名 1回 ・多面的機能支払交付金制度による生き物調査 6回 対象者: 127名 ・県、ステージアンサンブルと町の協定に基づく絆の森事業 2回 対象者: 22名 ・木工教室 4回 対象者:高小60名 屋小20名 糠小20名 もつくる20名 ・みどり環境交付金事業を活用した森林学習体験(高島小学校) 2回 対象者:121名(4年生:60名、5年生:61名) ・ゆうきの里さんさんを利用した農業体験数 0回 	新型コロナウイルス感染症予防対策の緩和により、高島小学校の森林学習を始めとして様々な事業をコロナ禍前と同様の水準で実施しようとしたものの、コロナ禍前の状況までに戻すことはできなかった。今後は事業対象の拡大により、木育の幅広い推進を図るとともに、農業による自然体験を推進する。
6)-⑬-2			河川の水質調査	環境学習の主軸を地球温暖化対策とし実施していることから、現状維持の取組を続けていく。						
			地区づくり計画、教育キャンプ、放課後子ども教室	コロナ禍の状況にあったものの実績は上向いてきている。コロナの制限が無くなったことから、今後は、現状の数値に近づく事が期待出来る。						
6)-⑬-2		田舎暮らし体験者数(累計)	10人	-	25	◎	企画財政課	高島町地域留学	都市圏大学生をメインターゲットとした移住体験事業の実施	

第6次高島町総合計画 評価指標（KPI）ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標（KPI）	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など	
6)-⑭-1	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑭安心して快適に生活できる環境を整える	橋梁の老朽化対策実施数(累計)	18橋	5橋	(R4)2橋 (累計)14橋	○	建設課	道路メンテナンス事業(橋梁補修・橋梁更新)※国庫補助	1巡目点検分の修繕工事が全て完了した。今後は2巡目点検分の工事に着手していく。	
6)-⑭-1			都市公園リニューアル事業(遊具施設)実施数(累計)	3公園	1公園	3公園	◎	建設課		全ての都市公園にある遊具施設のリニューアルを完了した。	
6)-⑭-1			歩道整備総延長	45.245km	44.245km	45.359km	◎	建設課	交通安全対策事業(交付金等)	町道本町泉岡線はR4で歩道整備完了。町道深沼入生田線(歩道設置延長L=145.0m)の歩道工事を実施。今後も計画的に歩道設置工事を行う。	
6)-⑭-1		⑭安心して快適に生活できる環境を整える	水道管路の耐震化率	23%	20%	22%	○	上下水道課	高島地区老朽管更新事業	高島地区老朽管更新事業を中心に耐震管への更新を進め、令和3年度実績の耐震化率21%を1%向上することができた。引き続き高島地区老朽管更新事業に取り組み、耐震化率の向上を目指す。	
6)-⑭-2			高島町住宅リフォーム支援事業による支援件数(年間)	50件	48件	67件	◎	建設課	住宅リフォーム支援事業(助成金・補助金)	広報活動により広く利用活用を促している。今後も継続して実施する。	
6)-⑭-2			空き家利活用件数(年間)	10件	-	32件	◎	建設課	①空き家バンク補助金 ②住宅リフォーム支援事業(助成金・補助金)	実績値数全てにおいて左記補助金等を活用した訳ではないが、可能な限り活用を促す。	
6)-⑭-3			道路除排雪担い手確保件数	5件	0件	1件	○	建設課	町道除排雪業務	委託料補償を実施し、除雪業者の費用負担を軽減している。	
6)-⑭-3			除排雪活動に継続して取り組む集落数	29集落	14集落	24集落	○	福祉こども課	除排雪のしくみづくり支援	社協の働きかけにより、自治会の自主的活動の取組みが増えている。今後も、支え合い活動が継続できるように、地域住民への声かけを続けていく。	
6)-⑮-1		安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑮みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	福祉防災マップ作製集落数	54集落	39集落	45集落	○	福祉こども課	地域支え合い(防災福祉)マップづくり支援	コロナ禍により新規作成の件数は伸びなかったものの、多くの自治会でマップづくり活動を行うことができた。今後も、マップづくりの様子や活用例等を広報しながら、日常的な見守りや活動等を推進していく。
6)-⑮-1				自主防災組織率	100%	81.10%	98.31%	○	総務課	地区自主防災組織連絡協議会活動 自主防災組織による自主避難施設環境整備	地区ごとの自主防災組織連絡協議会設立(R2)により組織化が進んだ。組織化していない集落についても、地区自主防災組織連絡協議会には加盟し、実質的に防災研修などには参加している。今後も組織化を進めつつ、防災減災の知識を普及し災害に強い地域づくりの担い手として活動する組織を目指す。
6)-⑮-1			消防団員数	785人	764人	660人	×	総務課	団員報酬の増額改定 出動報酬の創設	大幅な報酬増額改定を行ったが、その効果が表れるまで数年はかかると思われる。少子化と人口減少の影響が大きく影響しており、団員の増加自体難しい。本町においては総務省の基準の2倍以上の団員定数(807名)となっており、今後、見直しが必要と考えている。	
6)-⑮-2			運転免許証自主返納者数(年間)	80人	63人	75人	○	生活環境課	交通安全協力団体との啓発活動	自主返納者数は昨年度に比べると減少した。今後も免許を返納しても暮らしやすいまちづくりを目指しながら、高齢者に対し免許返納を呼びかける啓発活動を行う。	
6)-⑮-2			犯罪認知件数(年間)	45件	53件	38人	◎	生活環境課	高島町防犯協会各支部による青色防犯パトロール等	令和4年度は目標値を下回った。引続き青色防犯パトロールを実施し、侵入窃盗を防ぐための鍵かけ啓発活動などに力を入れていく。	
6)-⑮-2			交通事故(人身)の発生件数(年間)	85件	93件	42人	◎	生活環境課	各交通安全協力団体との啓発活動	町内の交通事故は大幅に減少している。引続きこの低い水準を維持するため、積極的に啓発活動を行っていく。	

第6次高畠町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
7)-⑩-1	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	⑩生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	日頃から運動している人の割合	30%	23.86%		△	健康長寿課	健康マイレージ、健康運動講座、健康運動サポーター、出前講座	運動のきっかけづくりや継続のため講座を開催していく。
7)-⑩-1			喫煙者の割合	12%以下	24.50%		△	健康長寿課	卒煙相談	禁煙したい人が禁煙に取り組めるような支援を行うとともに防煙講座も併せて実施していく。
7)-⑩-1			健康に関心のある人の割合	50%	36.60%		△	健康長寿課	健康マイレージ、健康づくりの情報発信	広報等を活用し健康に関する情報をタイミングよく提供していく。
7)-⑩-1			地域活動に参加している人の割合	30%	26.90%		△	健康長寿課	健康運動サポーター、食生活改善推進員活動支援	地域活動の担い手の育成と、町民の身近で活動できる場所をつくっていく。
7)-⑩-2			自殺死亡率(人口10万対)	13.1以下	18.7	18.8	△	福祉子ども課	地域自殺対策強化事業(ゲートキーパー養成講座、普及啓発等)	R4年度はコロナ禍の影響を受けながらも、JA女性部を対象にしたゲートキーパー養成講座や、高校生を対象にしたSOSの出し方講座など、おおむね計画通り行うことができた。今後も関係機関と連携し、効果的な事業の推進に取り組んでいく。
7)-⑩-3		後期高齢者医療の訪問診療利用者延べ人数(年間)	増加	3,804人	3,340人	×	町民課	なし	訪問診療(在宅医療)利用者が目標値よりも減少している状況が続いている。後期高齢医療被保険者は施設利用者が多く、施設入所すると、医師や看護師が常駐している場合もあり、安心して医療サービスを受けることができる。令和4年度は前年度よりも在宅医療利用者が167人減少しているが、新型コロナウイルス感染症の影響が長引き、クラスターも多数発生したため、他人との接触を避けたいという考えが影響しているものと考えられる。後期高齢者医療被保険者数は前年度より増加したが、いわゆる「団塊の世代」の加入増加によるもので、訪問診療(在宅医療)の利用状況にはほぼ影響しないものと考えられる。なお、訪問診療は医療機関での受診よりも医療費が高いため、訪問診療利用の減少は保険者、被保険者双方の医療費負担が減る面もある。	
7)-⑪-1		⑪地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	集落座談会を開催した集落数(累計)	55集落	40集落	(R4)1集落(累計)54集落	○	福祉子ども課	学集会・座談会	地域支え合いマップ作成に併せて実施し、福祉課題を共有し話し合うための機会づくりを行うことができた。今後は、マップ作成時のみならず、様々な場面を通して話し合う機会づくりに努めていく。
7)-⑪-2			ボランティアセンター登録者数	1,850人	1,751人	1,927人	◎	福祉子ども課	ボランティアセンターの運営	居場所づくりなどの活動が広がりセンターへの登録者数が増加傾向にあったが、一部ボランティア団体の解散により、登録者数が減少した。今後は、新たなボランティアの発掘・養成を目指して講座等を企画していく。
7)-⑪-3			地域の居場所の数(累計)	9か所	6か所	10か所	◎	福祉子ども課	子どもの居場所づくり運営支援事業 子ども食堂等物価高騰対策支援事業 若者の居場所づくり運営支援事業	子どもや若者の居場所づくりへの取組が地域で充実・拡大していくことを目的とした事業を実施。令和4年度は、子ども食堂として新規立ち上げを計画している1団体の立ち上げ支援を支援。また、物価高騰等による居場所運営への影響が懸念されたため物価高騰対策支援事業を実施。3月末時点で町内開設箇所は10か所で維持された。 ※子ども食堂・子どもの居場所4か所、学習支援2か所、若者の居場所3か所

第6次高畠町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
8)-⑩-1	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	⑩生きがいをもち人生を楽しんでいる人を増やす	地域の茶の間の開設数(累計)	6か所	4か所	5か所	○	健康長寿課	既存団体の継続支援、未設置地区への働きかけ	感染拡大の時期の開催休止はあったが、参加者にとっては、交流、健康づくりや楽しみ、お互いの見守りの場になっている。新規参加者を得るためのPRを強化するとともに、活動内容の充実を図る。
8)-⑩-2			住民主体の介護予防の場	35か所	24か所	60か所	◎	健康長寿課	既存団体の継続支援と未設置集落への働きかけ	生活支援コーディネーターの働きかけにより、3か所で新たに100歳体操が取り入れられた。今後は、無理なく継続できるよう、また、新たな参加者及び担い手の確保につながるような環境づくりを支援していく必要がある。
8)-⑪-1	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	⑪住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	集落のサロン数	50か所	34か所	79か所	◎	健康長寿課	既存団体の継続支援と未設置集落への働きかけ	感染予防対策を徹底しながら多くのサロンが活動を継続した。心身機能の維持向上や介護予防だけでなく、参加者間の見守りや高齢者の孤立防止につながっており、既存団体への指導相談と未設置集落への働きかけを継続して行う。
8)-⑪-1			買い物、通院、除雪支援を行う住民主体の団体	6団体	1団体	1団体	△	健康長寿課	既存団体の継続支援	既存団体1団体の継続支援を行った。新たなサービスを創出するために、地域に不足するサービスや高齢者のニーズを把握し、地域全体で高齢者を支えていくという意識啓発にも取り組む必要がある。
8)-⑪-2			在宅療養(看取り)の普及啓発事業開催回数(年間)	2回	2回	0回	×	健康長寿課	町民対象の「人生会議」普及講座	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために事業開催を中止とした。今後感染対策をしながら講座や広報等で普及啓発を行う
8)-⑪-2			認知症サポーター数(累計)	3,000人	2,303人	(R4)78人 (累計)2736人	○	健康長寿課	認知症サポーター養成講座 年間7回実施	継続してサポーター養成講座を開催し、認知症について理解し地域の中で認知症の方を支援する町民を増やすことができた。今後は、認知症への理解をさらに広めつつ、地域でのサポーター活動支援について展開していく。
8)-⑪-2			見守りネットワーク協力機関数	70か所	65か所	66団体	○	健康長寿課	広報掲載にて情報提供を行った。	協力機関の再確認を行い、新規の見守り協力企業等を増やすと共に、認定企業についても登録数を増やす。
8)-⑪-3			介護者研修会(交流会)参加者数(年間)	60人	47人	13人	×	健康長寿課	家族介護者交流会	日帰り交流会を2回実施した。家族の介護から一時的に離れ、心身のリフレッシュだけでなく、介護者同士の交流により、介護に関する情報交換や悩みを分かち合う機会となることから、今後も継続実施していく。
8)-⑪-3			認知症カフェの利用者数(年間)	400人	347人	12人	×	健康長寿課	直営での認知症カフェ開催(1回)	感染症対策にて町内2か所のカフェの再開については未定の状態であったため、直営の認知症カフェを1回開催。次年度のカフェ再開に繋げた。

第6次高島町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
9)-(20)-1	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	食農教育の実践学校数	維持	7校	7	◎	教育総務課		全小中学校において実施
9)-(20)-1			自然体験教室・自然体験イベントなどの実施回数(年間)再掲	維持	31回	47回	◎	統合	<ul style="list-style-type: none"> ・植菌授業 2回 対象者:高島小学校(4学年) 61名 1回、高島高校(2、3学年) 14名 1回 ・多面的機能支払交付金制度による生き物調査 6回 対象者: 127名 ・県、ステージアンサンブルと町の協定に基づく絆の森事業 2回 対象者:22名 ・木工教室 4回 対象者:高小60名 屋小20名 糠小20名 もつくる20名 ・みどり環境交付金事業を活用した森林学習体験(高島小学校) 2回 対象者:121名(4年生:60名、5年生:61名) ・ゆうきの里さんさんを利用した農業体験数 0回 	新型コロナウイルス感染症予防対策の緩和により、高島小学校の森林学習を始めとして様々な事業をコロナ禍前と同様の水準で実施しようとしたものの、コロナ禍前の状況までに戻すことはできなかった。今後は事業対象の拡大により、木育の幅広い推進を図るとともに、農業による自然体験を推進する。
			河川の水質調査	環境学習の軸を地球温暖化対策とし実施していることから、現状維持の取組を続けていく。						
			地区づくり計画、教育キャンプ、放課後子ども教室	コロナ禍の状況にあったものの実績は上向いてきている。コロナの制限が無くなったことから、今後は、現状の数値に近づく事が期待出来る。						
9)-(20)-2	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	有機・特別栽培水田面積	維持	712ha	649	△	農林振興課		平成23年度をピークに緩やかな減少傾向がみられる。農業者の高齢化による離農もしくは耕作面積の縮小が原因とみられる。今後は若手農業者グループの集いの場において、国県の補助事業の説明を行い、認知及び関心を図る。
9)-(20)-2			耕作放棄地面積	130ha	141ha	130.8	○	農業委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・荒廃農地等利用活用推進事業 ・農地パトロール 	町補助金による成果及び、自助努力による荒廃農地の整備が図られた。今後も継続して事業を推進していく。
9)-(20)-2			屋代川のBOD値の値	2mg/L以下	1.2mg/L	1.6	×	生活環境課	河川の水質調査	現状値よりは改善している
9)-(21)-1	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	㉑持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	COOL CHOICE賛同者・企業数(累計)	,100人・60団体	954人・40団体	1,052人・43団体	○	生活環境課	事業実績なし	コロナウイルス感染拡大防止のため、縮小してのイベント開催となったため、併せて行っていた啓発活動を実施することができなかった。
9)-(21)-2			公共施設の温室効果ガス排出量(年間)	5,258t-CO2	5,779t-CO2	4,656t-CO2	◎	生活環境課	町内木質バイオマス発電所の電気供給	エネルギーの地産地消として、町内木質バイオマス発電所のFIT電源を利用し、公共施設3施設に電力供給を行った。併せて、非化石証書を購入し、電気の使用による排出量を実質ゼロとする取り組みを行った。同様の取り組みが他施設に展開できないか検討を進めていく。
9)-(21)-2			再生可能エネルギー導入容量(固定価格買取制度適用分)	9,200Kw	8,694Kw	9,228Kw	◎	生活環境課	再生可能エネルギー設備導入事業費補助金	再生可能エネルギー設備導入に対し、補助金を交付し支援を行うことで導入の促進を図ることができたため、継続して取り組んでいく。
9)-(21)-3			最終処分廃棄物量	700t/年	766t/年	707t/年	○	生活環境課	置広での可燃物焼却灰埋立、不燃物処分量	小型家電回収事業や生ごみ処理機購入への助成などを実施し、目標達成に向け取り組んでいる。災害などでも増減はあるため、見通しは不明。今後も減量化事業を継続していく。

第6次高島町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
9)-㉒-1	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	㉒歴史、文化遺産を守り活用し、伝承するを増やす	歴史文化学習会の開催数(年間)	45回	42回	45	◎	社会教育課	考古資料館館長講座、古文書講座等	事業件数・参加者もコロナ前に戻りつつある。引き続き文化施設、関係機関と協力し事業を実施していく。
9)-㉒-2			文化遺産の活用事業数(年間)	5事業	2事業	2	△	社会教育課	五百羅漢像完成報告会、歴史公園夜間ライトアップ	コロナ禍後の時代に対応した実施可能な方法を検証しながら進めていく。
9)-㉓-1		㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす	40歳未満の若者を対象とした町・地区事業の実施回数(年間)	増加	94回	146	◎	社会教育課	各地区の青少年講座・成人一般講座の回数	コロナ禍の状況にあったものの、感染症予防対策を図りながら事業を実施した。
9)-㉓-1			中高生や若者によるまちづくり企画の支援回数(累計)	40回	-	37回	○	統合	東大・東京外大生の地方活動受け入れ	東大・東京外大生の地方における実地活動を受け入れ、町内若手事業者との連携事業等を実施した。
									青年団体連絡会 国内研修(まちの新人研修) 若者地域育成事業	地域づくり推進事業等により若者の自主的な取り組みを支援していく 若者に高島町の魅力を再認識してもらえるように事業を計画し、実施する。
									東大FS、外大ST、九里学園ST、高島高校での出前講座等	東大FSや外大STでは地方からの若者流出を課題に設定し、その課題解決に向けた施策等を、地元学生や町内事業者と共にワークショップを実施した。また、九里学園STは、町内でのフィールドワークを中心に、食と健康をテーマに探求学習を進め、地域協働型の学習プログラムを構築できた。次年度は高島高校での実施を計画している。東大FS 12回、外大ST 8回 九里FW 9回 高島4回 計33回
9)-㉓-2			若者活動団体による若者を対象とした事業・活動の実施回数及び参加者数(年間)	増加	14回・520人	77回・521人	◎	社会教育課	高島町高校生ボランティアサークル 地球、国内研修(まちの新人研修)	自主的、自発的な活動を促し、事業が継続できるよう支援していく。 若者に高島町の魅力を再認識してもらえるように事業を計画し、実施する。
9)-㉓-2			若者の夢や志を支援するプロジェクト事業実施回数	5事業	-	12事業	◎	統合	高島町高校生ボランティアサークル 地球、国内研修(まちの新人研修)	自主的、自発的な活動を促し、事業が継続できるよう支援していく。 若者に高島町の魅力を再認識してもらえるように事業を計画し、実施する。
	東大FS、外大ST、九里学園ST、リーダー経営人材育成塾	東大FSや外大STにおいて、リーダー経営人材育成塾の塾生へのインタビューや塾生の事業構想(プレゼン)の発表会を実施した。町や町の大人たちの魅力に触れることで、地域について関心を高め、自分の将来について考える機会を創出できた。来年度も事業を継続し、教育に関わる大人、町内企業を増やしていく。								

第6次高島町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
9)-⑭-1	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	⑭協働でまちづくりを進めるための環境を整える	町民とのまちづくりワークショップや人材育成事業の実施回数(累計)	100回	27回	(R4)70回 (累計)194回	◎	統合	東大FS、外大ST、リーダー経営人材育成塾	東大FS及び外大STにおいて、地域活性化や魅力発信のワークショップを現地活動として合計20回実施した。また、町内企業や個人事業者の次世代経営者を対象にした、リーダー経営人材育成事業を開催し、講座・メンタリング等を年間合計18回実施した。 東大FS 12回 外大ST 8回 人材育成 18回 計38回
									環境基本計画策定のためのワークショップ	町民の声を計画・施策に反映させるため、将来を担う若者を中心に参加者を募りワークショップを開催した。令和5年度は、ワークショップ参加者に加え、改めて募集する方と共に、計画を実現するためのアイデアを実践する事業を行っていく。
									防災×福祉×男女共同参画連携セミナー	防災の視点での地域福祉の推進のため関係課と連携しセミナーを実施した。
									屋代地区における地域活動研修会	屋代地区公民館にて、「まちづくりアドバイザー」の派遣を依頼し、コロナ禍における地域活動の研修会を実施した。
									農とぴあ実行委員会事業6回	今後も企画を検討していく。
9)-⑭-2			財政力指数	0.387%	0.387%	0.399	◎	企画財政課		再算定による基準財政需要額の増
9)-⑭-2			派遣研修受講職員の延べ人数	120人	110人	97	×	総務課		専門分野派遣(4名)、県研修所(73名)、置研協(20名)延べ97名
10)-⑮-1	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	⑮町内外に町の魅力を効果的に発信する	ふるさと名物応援宣言による地域ブランド商品サービスの開発件数	5件	-	137件	◎	商工観光課	ふるさと納税事業(返礼品開発)	ふるさと名物応援宣言の取り組みからふるさと納税返礼品の開発に方針を切り替え、町内企業、個人事業主(農業者含む)から地域資源の発掘や磨き上げを実施した。令和4年の実績として、新たに137件の返礼品を登録し、ふるさと納税の仕組みを活用し、全国へWEB広告を中心にプロモーションを行った。今後も魅力ある返礼品の拡充を図っていく。

第6次高島町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
10)-㉔-2	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	㉔町内外に町の魅力を効果的に発信する	首都圏プロモーションの実施回数(年間)	10回	5回	5回	△	商工観光課	首都圏プロモーション事業、海外プロモーション事業	インバウンドによる観光振興と町内食品加工企業の販路拡大を目的とし、海外プロモーション事業を実施。台湾にあるメトロポリタンプレミアム台北内にある日本料亭やレストランにおいて、特産品を活用したコース料理を約1か月間提供していただいた。また、SNSを活用した情報発信やオンライン観光イベントを実施した。来年度は、実際のインバウンド誘客の事業に展開する。
10)-㉔-1		㉔高島町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	町内宿泊者数(年間)	34,372人	29,372人	20,304人	×	商工観光課	町総合観光推進協議会事業	新型コロナウイルスの影響で、激減した観光客数・宿泊者数も少しずつ戻りつつあるが、廃業した旅館もあり、宿泊者数総数としては前年度よりも少ない状況である。イベント開催もコロナ禍前の状態にほぼ戻るため、引き続き、観光資源の発掘及び磨き上げや、高島ならではの新たな観光プログラムをつくり、誘客を図っていきたい。
10)-㉔-1			外国人宿泊者数(年間)	5,000人	484人	285人	×	商工観光課	町総合観光推進協議会事業	新型コロナウイルスの影響で激減した観光客数も少しずつ戻りつつあるが、外国人観光客としては団体旅行での通過型が多いため、観光で宿泊者数を伸ばすことはなかなか困難である。現在の宿泊者数の大半は企業訪問関係者である。観光で宿泊者数を伸ばすには、今後は魅力ある滞在型メニューづくりから宿泊へ繋げていく取り組みが必要である。
10)-㉔-2			町公式ホームページ観光サイトの閲覧数	10,000回	-	18,311回	◎	企画財政課	町公式ホームページ観光サイト令和4年度閲覧数	・ゴールデンウィーク前や夏休み前などで閲覧数が伸びた。冬季より夏季の方が閲覧数が多い。
10)-㉔-2			町の魅力発信ワークショップ参加者数	120名	-	0人	×	商工観光課	-	コロナ禍も影響して実施出来ていないが、ワークショップが有効なのかも含めて、今後の開催にむけて検討していく。
10)-㉔-2			町公式YouTubeチャンネル再生回数	100,000回	17,761回	91,921回	○	企画財政課	町公式YouTubeチャンネル再生回数(累計)	・新規動画を20本更新した(最高再生回数1,531回、平均再生回数280回)ふるさとCM大賞作品の再生回数が多い。
10)-㉔-1			町内農業体験者数(年間)	700人	513人	0	×	農林振興課	・ゆうきの里さんさんを利用した農業体験者数、屋代村塾、修学旅行受入れ数	新型コロナウイルスの流行により取り組みがなかった。
10)-㉔-1		熱中小学校プロジェクトによる交流人口(年間)	2,500人	2,281人	1,364	×	企画財政課	熱中小学校プロジェクト	令和3年度実績(1,329人)からは改善したものの、新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン形式の導入等により、来校者数は「現状値」より減少している。	
10)-㉔-2		㉔交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす	県外の企業・自治体・大学等と協働で3年間以上継続して行っている事業の数(累計)	10件	6件	(R4)6件 (累計)33件	◎	統合	福祉のまちづくり推進委員会の委員に立教大学コミュニティ福祉学部の西田教授に依頼。高齢者虐待防止研修会の講師を立教大学に依頼。	今後も立教大学と連携していく。
京王プラザホテルラ・フランス事業									今後も企画を検討していく。	
10)-㉔-2								・自治体(横浜市栄区・横浜市旭区、東京都江戸川区・宮城県山元町)との物産展を通しての交流事業・東京大学、東京外国語大学との連携授業	コロナの影響により物産イベントの中止が相次いだため、実施件数は減少した。大学との連携はオンライン中心ではあるものの、引き続き東京の大学2校との交流が続いているため、今後も継続し、高島ファンの獲得に繋げたい。	
10)-㉔-2								たかはた墨田交流事業・人材養成事業中高生海外(シングルTON)派遣事業	コロナの影響により事業が実施出来なかった。関係人口の増加に向けて、今後も双方向の文化交流を継続していく。	

第6次高島町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R4末実績	進捗状況	担当課	R4 指標の主な事業	R4 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
10)-㉗-3	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	㉗交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす	都市部で開催する交流事業の参加者数(年間)	100人	50人	50人	△	統合	・東京高島まほろば会との交流事業 ・友好都市との交流事業	山形県等との共催事業はあるものの、主催した事業は無し。 R4もコロナ禍で都市部での事業展開は困難であった。(栄区民まつりは開催できたものの規模縮小での開催)クマほろば会や横浜市栄区などにおいては、会報等を通じて情報発信を行ったりと交流を図ってきたが、継続して取り組んでいきたい。
10)-㉗-3			ふるさと納税の申込延べ人数(年間)	2,500件	1,509件	22,228件	◎	商工観光課	ふるさと納税事業	たかはた墨田交流事業 コロナの影響により事業が実施出来なかった。相互交流事業再開に向けてたかはた墨田交流事業運営委員会を中心に、事業の見直しと企画検討会を行う。
10)-㉘-1		㉘移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	移住相談(問い合わせ)件数(年間)	100件	8件	55	○	統合	窓口、電話、イベントでの相談件数 ・新規就農オンライン相談会ほか 対応人数 44名	イベントの現地参加の増加を図る。 置賜総合支庁及び置賜地域の市町と連携し、県外からの移住就農者の募集を継続していく。
10)-㉘-2			空き家バンク成約数(町外の方の累計)	50件	1件	(R4)0件 (累計)1件	△	建設課	高島町空き家バンク	引き続き、高島に住みたくするような魅力ある地域資源やイベント等をSNSを活用しながら発信していく。
10)-㉘-3	移住者支援事業の開催回数(年間)		3件	0件	6件	◎	統合	デュアルスクール導入調査事業 農とぴあ交流会 ①移住相談会:やまがたハッピーライフカフェ、くらすべ山形 移住交流フェア、新農業人フェア ②移住体験:高島町 地域インターン	二地域居住やお試し移住を促進するため、区域外就学制度を活用したデュアルスクールを導入するための調査事業を実施。来年度より実際にモニターの受入れを行う予定。 新規就農者と先輩農家等とのネットワークづくりもねらい継続実施を検討。 ① 山形県等との共同での開催に参加したもの。 ② 地方創生推進交付金を活用し、熱中中学校事務局が主催する形式として開催したもの(学生を中心に23名が参加)	